



緑の中道

なかみち
中道 まゆみさん

やってみて良かったといつも思っています。
毎日忙しくしていますが、自分の裁量で時
間をやりくりできるというのはとても良い
ですね。

経営 data

PROFILE

指宿市出身。福岡の教育大学を経て小
学校臨時教員として数年勤務。その後
調剤薬局の事務職へ転職。次男出産を
きっかけに就農。三男(長男18歳・次男
16歳・三男11歳)の母。

事業概要

モンステラ、オーガスタ、ポトス、セロー
ム、サンスベリアなどの観葉植物を3棟
(40a)のハウスで栽培。

目指す農業のかたち

無理をせず、家族経営としての農業を
楽しむこと。子育てと農業を両立させ
ながら、品質の良い観葉植物をできる
だけ長くつくり続けたいと考えていま
す。

●就農のきっかけ

次男の出産をきっかけに就農
しました。16年前ですね。
もともとは教育者を目指して
いたので、福岡の教育大学を卒
業して小学校臨時教員として数
年勤めた後、やはり大好きな地
元指宿市ですと仕事があった
と思い、調剤薬局へ転職しまし
た。でも、薬局は早番や遅番があ

り、子育てとの両立が厳しくなっ
てきて、夫の農業を手伝うこと
にしました。夫は大阪で働いていま
したが、父の病気をきっかけに帰
郷し、この観葉植物の栽培を継
ぎました。
夫や義母の理解もあり、例え
ばPTAなど、休みたい時に休め
るというのはとても気が楽です。
毎日忙しくしていますが、自分の

裁量で時間をやりくりできると
いうのはとても良いですね。

●就農してみて感じたこと、
苦労したこと、「農業をやっ
て良かったこと」思った瞬間

やってみて良かったといつも
思っています。農業は自分に合っ
ていますね。身体を動かすのが
好きですし、うちは家族経営な
ので気楽に仕事ができるという
点も大きいです。

ぜんぜん重労働ではないのに
最初は疲れましたが、それも1
年ほどで慣れました。

また、観葉植物生産は、毎日キ
ラキラした緑に囲まれて仕事が
できるのでストレスが少ないで
すね。野菜や花は成長に細かく

●目標としていること

そうですね。特に目標はないか
もしれません。あえて言えば、い
かに現状を維持するかが目標で
す。無理をしないこと、健康がい
ちばんです。

子供たちが育つまで続けられ
れば良いと思っています。長男は
水産や工業に興味があり、次男
は駅伝に夢中です。継承は特に
考えていません。血縁に「たわら
ず、やりたい人が引き継いでくれ
れば良いですね。

三男が成人するまであと10
年。その後はもっとゆとりやろ
うと思っています。



気を遣う必要があるけれど、観
葉植物はデリケートなタイムマ
ネジメントを必要としない、とい
う利点がある
と思います。



●就農を考えている女性へのメッセージ

大切に育てた観葉植物が色も形もすべて自信を持って出荷できたときは本当に嬉しいです。頑張っただけ結果が出るので、やりがいがありますよ。
そして、時間に自由がききます。自分は子育てがしやすかったですね。

あと、捨てるところがないので、観葉植物は作物としてお薦めです。

●その他、農業や地域へ鹿児島県の魅力など

観葉植物の生産者は地元にはいっぱいいますが、種類が違ったり、ライバルだけとそうでないみたい。観葉女性部Ms.の会のメンバーとは、同業者であるからこそ、何でも話せて、楽しい仲間です。女性ならではのアイデアを出し合いながら、色々と研修したりイベントに出店したりしています。みんな楽しく面白い人たちです。食べ物も豊富で温泉もあって、指宿は良いですね。

●日のタイムスケジュール

朝は8時半から作業開始して、月金土は出荷作業、それ以外の日はそれぞれの持ち場で作業をしています。

13時半からは、植え付けやハウス内の植物を移動、水かけや掃除などを行っていますね。私は子育ての関係で16時に仕事を終えるようにしています。

それぞれ持ち場があり、自分はオーガスタ、義母はモンステラ、妹(弟のお嫁さん)はポトス、夫はそれ以外を担当しています。

品種によりですが、3月と9月など一斉に種まきと苗あげをして、1年を遡って栽培しています。以前は週6日働いていたのですが、2019年に「働き方改革」が広まったのをきっかけに、水曜午後・土曜午後・日曜の週休2日になりました。それ以外に、学校行事などの時は仕事をやりくりして休んでいます。

夫と義母と妹と仲良くやっていますが、義母にとっては観葉植物の栽培は生きがいになっています。

るようですので、できるだけ長く続けてもらいたいですね。





「これ鎌田さんのユリでしょ!」
と言われると嬉しいです。



花卉

鹿児島市

鎌田ユリ園

鎌田 美香さん

かまだ みか



本来は叔母の跡を継ぐつもりでしたが、夫が、たんだん「自分で好きなように作ってみよう」と思うようになり、2017年に新規就農しました。

●就農してみても感じたこと、苦労したこと、「農業をやって良かった」と思った瞬間

いつ（花が）病気になるか、台風が来るか、気象ではないけれど、子供の学校行事とか急病とか、自営だから時間に融通がきくのが良いですね。

お客様に喜んでもらえる嬉しいですね。花でこんなに感動したのは初めて「ユリの印象が変わった」と言ってもらえる

ことがあります。そんな風に喜んでもらうために、手間も経費もかけています。

●目標としていること

現在、県内だけでなく関東や福岡、熊本など全国に発送していますが、もっと増えてくれれば良いですね。

たまたまお客さん同士が友人で「これ鎌田さんのユリですよ」という話になったと聞いた時はとても嬉しかったです。

将来的なことを考えると、いま、長男が滋賀県の園芸学校で学んでいます。彼が帰ってこれる環境をつくっておきたいですね。

●就農のきっかけ

また「予定してなかったのですが、2011年の震災の後、夫の実家のある沖縄県八重瀬郡、そして義父母、義叔母姉妹と話しているうちに経営の跡継ぎについて話が出ました。あまり覚えていないのですが、私が、就農を迷っている夫に「やってみれば？」と背中を押したの

がきっかけだったようです（笑）。当時、夫婦それぞれの会社に勤めていたのですが、退職して帰郷しました。帰郷してから数年の間、夫は霧島市清辺町でユリの栽培をしていた叔母のもとで、オリエンタルユリの生産技術習得を、私は鹿児島市内で花屋を経営していたもう一人の叔母のもとでアルバイトをしていました。

経営 data

PROFILE

東京都出身。ホテルの電話交換手として勤務していたが、夫が故郷の鹿児島県で新規就農することになり、自身も手伝うことに。前職の経験を活かし、顧客対応などを担当。2児（長男19歳・次男9歳）の母。

事業概要

オリエンタルユリの生産・販売。ハウス3棟（22a）。2017年5月に創業。

目指す農業のかたち

高品質でコストパフォーマンスの高い花づくりを目指しています。「ユリってこんなに素敵なんです」と言われることが嬉しく、オリエンタルユリの魅力をもっと多くの方々に知ってもらえるような農業を目指しています。

「花でこんなに感動したのは初めて」「ユリの印象が変わった」というお客様の声の励みになります。さらに品質の良いオリエンタルユリづくりを目指したいと思います。



●1日のタイムスケジュール

7時半に出勤して、夫が切ってきた花を選別して袋詰め、出荷準備、合間に接客です。
14時過ぎ頃から市内の直売所へ配達して、家に着くのは19時ころです。

次男と20時半に就寝し、3時半起床、家事と片付け、お客さんとのLINEチェックなどは4〜5時半、7時まで家事をやった出勤という流れです。繁忙期は6時に畑へ出て、出荷のための準備をすることもあります。

1週間で決まった休みはなく、ときどき臨時休業します。出荷は土壌消毒後の8月から6月末までです。全国どこへでも発送していますが、暑い季節は配送時の花の品質が気になるため、お断りしています。

毎日忙しく、花の管理などにもいつも気を遣っていますが、ストレスはないですね。

●就農を考えている女性へのメッセージ

私は夫が「やりたい」と言ったことを後押しした立場なので、特に覚悟があったわけでもないです。けど、安易な考えでは経営は難しいと思います。

ときどき報道されている「簡単にできますよ」といいたいではやれません。自然に左右されるし、何かしらトラブルもつきものです。



6 選別袋詰め、出荷準備接客など

7 昼食休憩

8 作業続き

9 出荷・配達

10 夕食・家事

11 次男と就寝

12 家事・片付け

13 お客さんのLINEチェックなど



それなりの体力も必要です。しっかり勉強して、覚悟を持ってやったらほうが良いと思います。

●その他、農業や地域（鹿児島）の魅力など

鹿児島は輸入に頼らず農産物の全てを賄えます。農業に関わったからこそ、多くの生産者と出会えました。直売所では、生産者たちがこたわって作った農産物がそろっているので、私も配達ついでによく買っています。人も老若男女みんな優しいです。気候も良いし、鹿児島は最高です。



仲村雅農園

なかむら まゆみ
仲村 真由美さん

真面目に頑張っている農家さんがいるから、日本の食卓が安心安全で美味しい彩りに溢れることを知ることができました。

経営 data

PROFILE

鹿児島市出身。18年間、転勤に伴い全国を移り住み、仕事に疲れた夫の希望により、父の出身地である日置市で就農。2児（長男18歳・次男14歳）の母。

事業概要

就農から9年目。3棟（25a）のハウスで、6品種のいちごを栽培（さがほのかを中心に、さつまおとめ・びがいちご・真紅の美鈴・天使のいちご・やよい姫）。

目指す農業のかたち

栽培技術を高めながら多品種のいちご栽培や減農薬などに挑戦し、PR方法や販路についても考えながら安定した経営と安心安全で美味しいいちごづくりを目指しています。

●就農のきっかけ

夫の就農がきっかけです。結婚してから転勤で、福井・福岡・函館・兵庫と移り住み、夫は仕事で疲れていました。ある時期から転職を考え、「農業も気になる」と言い始めました。

忙しい夫のやとを取れた夏休み、に鹿児島へ帰省。その際、父が営んでいた日置市のいちご農家さんを訪

と話を聞きに行き、地元の農家さんに「教えてあげるよ」と言われて、就農することを決めました。

●就農してみえたこと、苦労したこと、農家をやって良かったと思った瞬間

今でも「こんなはずじゃなかった」と思うことはあります（笑）。最初は分からないことだらけで、何をすることも失敗ばかりしていました。

でも、地元の農家さんが厳しくも丁寧に世話を焼いてくれたので、美味しいいちごを作ることができました。最初に実ったいちごは、家族で四等分して食べました。本当に美味しかったです！

実は、1年目なのに賞もいただきました（笑）。これも先輩農家さん達が手塩にかけてくださったおかげです。

突然、他県からやってきた bodies の知らない私たちに色々なことを惜しげもなく教えてくださり、「一緒に汗をかくてくださった先輩農家さん達には心か

ね農園を見せてもらいました。

今思えば、育苗時期で少し時間のある頃だったのでしょう。農家さんが水やりをしながらお茶をしていたそうです。食事の時間もまともに取れないほど忙しかうた夫は「こんな働き方がしたいな」と羨ましく思いました。その時の、田がキラキラ輝く美しい光景が忘れられず、その後2度ほ

ら感謝しています。

いちご農家になつていなかったら作物をつくる大変さを知らないままでしたし、素敵な先輩農家さん達に出会うことはありませんでした。真面目に頑張っている農家さん達がいるから、日本の食卓が彩りに満ちていることを知っていました。そして、農家がかっこいいと思えました。

●目標としていること

まだ2人前じゃないと認識しています。今でも先輩農家さんが助けてくれるので、とても感謝しています。目標は少しでも「かっこいい農家」に近づきたいです。

以前よりは栽培のことわかってきたので、新しいことにチャレンジしていきたいと考えています。まずは多品種栽培。温暖化も進み、いちご栽培には厳しい環境が続いています。いろいろないちごを育て、栽培のしやすさを考えながら、お客様のニーズに

応えていければと考えています。また、特別栽培（化学合成農薬や化学肥料の使用を一般栽培の



●就農を考えている女性へのメッセージ

年配の方々もされているから大丈夫と思うかもしれませんが、体力的にも農家は結構大変です。まずは、どんな作物を選つか。また、それを育てる土地はあるのか。指導者が居るか。1年を通してどんな生活になるか、ある程度イメージを持ったらうで始めた方が良いと思います。もちろん、やってみないと分からないことばかりですけど、イメージしておくとことは大事だと思います。

また、生活が安定するまでの初期投資のお金も必要です。

●その他、農業や地域（鹿児島）の魅力など

この地域は、小中学校・地域合同の運動会があります。みんな下の名前が呼び合って、年齢問わず、みんながお互いを知っている優しい空間です。近くに住む90歳のお爺さんが作っている直売所の茄子は7本100円！自然豊かな環境で夫もすっかり元気になりました。日置市は良いところですよ。

50%以上減らして栽培）に取り組み、安心安全で美味しいいちごを皆さんに食べてもらいたいです。

またまた生活も厳しいので、付加価値を高め、単価アップに繋げたいと思います。

●1日のタイムスケジュール

5時過ぎに起床して、顔を洗って洗濯。お弁当と朝ごはんを作って、8時までにハウスに入りまします。今（取材時10月頃）だったら苗の手入れやマルチ張りですね。12時過ぎまで作業して、お昼ごはんを作って、片付けや洗濯などをして、14時頃から作業。いちごがなりだすと収穫やバック詰めなどの出荷作業もあります。繁忙期には、朝3時から収穫して、夜までバック詰めなんて時もあります。土日もなかなか休めません。

バックの導入など設備投資も積極的にを行っています。なかなか時間的余裕がないので、改めて作業内容の見直しや効率化を図りたいと思います。





(株)川原畜産

段 だん

由美さん ゆみ

牛飼いという仕事は自分で決めましたが、毎日楽しく働いています。



●就農してみても感じたこと、苦勞したこと、「農業をやって良かった」と思った瞬間
やって良かったと毎日思っています。確かに最初は大変で、苦勞もしましたが、牛飼いという仕事は自分で決めましたから、毎日楽しく働いています。
夫は高校の同級生です。その頃から実家の畜産業をやっているつもりだったので、付き合っている頃から牛の話ばかりしていました。今も変わらず、牛の話ばかりしています。時にはアドバイスももらったり頼りになる存在です。もちろん、始めてみて悩みはありました。大学の学びが活かせることもありましたが、分か

●就農のきっかけ

高校生くらいの頃からでしょうか。地元の農業高校へ通いましたが、実家の畜産業をやろうと自然に考えるようになって、農業大学の肉用牛科へ進学しました。
祖父は柑橘、牛を何頭か飼っていました。その柑橘農業を継ぐつもりで父は農業高校へ進学

経営 data

PROFILE

薩摩川内市出身。父の畜産業を手伝うかたちで就農。兄・妹とともに家族経営で畜産業を営む。夫はJA勤務。2児（長女8歳・次女4歳）の母。

事業概要

和牛繁殖業。牛舎13棟で母牛約300頭・子牛約200頭・肥育牛約10頭。父・母と兄と姉妹、計5名の家族経営を中心に、福岡から帰郷した叔父と従業員2名。

目指す農業のかたち

現状の規模を維持しながら、牛の品質を高め、子牛の生産から育成、肥育までを行う一貫経営の比率を少しずつ高めていきたいと考えています。

●目標としていること

育てた牛を出荷して、買ってくれたところから、「牛がおとなしい」「飼いやすい」と言ってくれると嬉しいですね。大事に育てた甲斐があります。

畜産業に関わっている女性が多いと思います。私は、出産子育ての経験を活かしている部分があり、母性は役に立つのかなと思います。お産する母牛の気持ちに寄り添えるようになりたい。

ともかく、現状の規模を維持しながら、品質を高めていきたいです。あとこの仕事を始めて、改めて父の凄さが分かりました。

2009年に法人化して、父が社長、私たちが取締役になりましたが、社長の頭の回転の早さに追いつけるよう努力しながら、



●就農を考えている女性へのメッセージ
畜産業に関わらず、農業は女性と相性がいいと思うし、カッコいい仕事だと思うので、自信を持ってやってもらいたいです。

妹と一緒にこの法人を盛り立てていきたいです。そういう意味では、一貫経営(子牛の生産から育成、肥育までを行う二貫型の畜産経営)の比率も高めていきたいです。

●日のタイムスケジュール
私は9時に出社して、それぞれ担当している牛舎をまわります。今は妹が子牛の哺乳担当です。

私が哺乳の子の餌やり、見回りをしながら牛の体調を観察しています。それからお昼ご飯を食へて、午後からまた餌やりをして夕方5時半まで働いて、子供をお迎えに行きます。

家族経営なので、ある程度の自由はきます。子供の学校行事で休んだりとか、時には旅行に行ったりもします。その点は恵まれていると思います。



●その他、農業や地域へ鹿児島県の魅力など

自然が豊かでご飯も美味しいです。鹿児島県の人達は優しいです。近所の農業者が、サツマイモの蔓や稲わらを持ってきてくれたり、地元の繋がりがあります。

あと、娘の保育園の子たちが見学に来てくれたことがあります。食育の点でも一人でも多くの子供に牛の魅力を知ってもらえれば嬉しいです。薩摩川内市は畜産も盛んで良いところです。



小学生の時から家業を
継ぐと決めていました。



株式会社
KUMADA

くまだ あすか
熊田 明日香さん

農業は、自然が大好きな私にぴったりの仕事です。そしてさらに、近い将来、うちの有機栽培の緑茶や紅茶とお菓子を提供するカフェをやりたいと考え、目下準備中です。

経営 data

PROFILE

さつま町出身。鹿児島県立農業大学校卒業後に就農。4人姉妹の次女で、母から「後を継がなくても、他にやりたいという人がいれば譲ればいい」という言葉を聞き、小学生の時に「家業を継ぎたい」と決意。就農後に、自身のプロジェクトとして紅茶やお菓子を新たに開発し、販売している。

事業概要

有機茶の栽培・製造・販売業。約8ha。やぶきた・さえみどり・おくゆたか・べにふうきなど数品種を栽培。緑茶・紅茶・ほうじ茶などを製造販売。自社のお茶を使ったお菓子も製造販売。平成14年～有機JAS認証取得。平成20年～ASIAGAP認証取得。令和2年に株式会社KUMADAとして法人化。

目指す農業のかたち

海外輸出にも目を向けながら、日本のお茶離れを改善し、もっと多くの人々にお茶を楽しんでもらえるよう、いつかは自社の有機栽培の緑茶や紅茶とお菓子を提供するカフェを開業することを目指しています。

●就農のきっかけ

小学校高学年から決めていました。うちは4姉妹で、世間でよくいう後継ぎ息子がいなかったの、親は非血縁継承も考えていたみたいですけど、自分が継ぎたいと思いました。

なぜ、うちの仕事なのに「他人に継がせてもよい」と言うのかと、負けず嫌いの血が騒いで、小学生の時に書いた作文には「家の茶園を継いでお茶屋さんになる」と書いていました。その思いはずっと変わらず、宮之

城農業高校（現薩摩中央高校生物生産科）から鹿児島県立農業大学校茶葉科へ進学して茶業を学び、卒業後に就農しました。動物が好きで獣医師さんになりたいと幼少の頃に思ったこともありましたが、負けず嫌いが勝って就農を決めました。

うちは、2代目の父の代になうた際、農業不使用の栽培に変えました。その後、有機栽培に完全に転換して有機JAS認証も取得しました。作業はとも手間がかかりますが、覚悟を持って就農しました。

●就農してみて感じたこと、苦労したこと、「農業をやって良かった」と思った瞬間

農大を卒業して就農した年、お茶の市場価格が大幅に下がりました。それでも、両親と話し合いながら、良いものを作るために頑張ってきました。

実は、就農前に海外へ農業研修へ行くことが悩んでいたのですが、やっぱり学べたら日本茶を学びたいと海外は諦めました。

就農したその年は茶価格の低迷だけでなく不幸があったりと大変な年で、自分が就農してなかったら家業はもっと大変だったのではと思っています。茶の世界は、女性の後継者が少ないので、そういった面で苦労することはあります。

これまでチャレンジした中で、やつて良かったと思ったのは、紅茶を商品化してお客様に評価してもらえたことです。

紅茶は、両親でなく妹と二人で試作を始め、自分で製造から商品開発までチャレンジしたことなので、評価していただけでとても嬉しかったです。

●目標としていること

「鹿児島県茶生産者コンソーシアム」という同業会社の仲間として、みんなで会社を立ち上げて少しずつ販路を拡げています。日本の有機のお茶は海外でも高評価を受けていると感じます。販売の可能性が高く、期待を持っているところです。今後、時間をかけて販路を開拓したいと思っています。



一方で、消費が低迷する国内の市場と茶の消費拡大をどうにかしたいです。つまり、日本人のお茶離れの対策をとりたいたいと考えています。

小学校のお茶いれ教室で感じたことですが、かつて、日本の家庭では食事とともに緑茶がありました。今は急須がない家庭も多く、お茶を楽しむ時間ひとときが家庭の中で減っていること。併せてお茶の良さを知る機会も減っていると感じています。

そういう目的から、お茶の時間を楽しんでいただけたるようにと、お菓子作りをはじめました。そのための加工室も作り、自家産のお茶を使ったお菓子をイベントで販売しています。

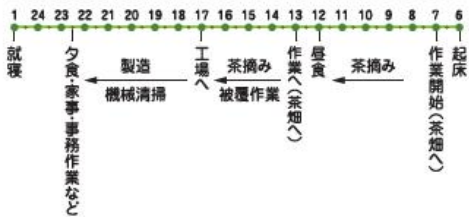
いつか、うちの有機栽培の緑茶や紅茶などのお菓子を提供するカフェを作りたいと思っています。みんなが集まって、お茶を楽しむ場所をつくるのが夢です。

●1日のタイムスケジュール

農閑期は8時頃に起床して、9時に茶園に出ます。草刈りを

シアへ海外旅行したり、輸出の関係で海外での商談や市場視察に行くこともあります。

タイムスケジュール(繁忙期)



●就農を考えている女性へのメッセージ

農業は、やりがいのある仕事として良い選択だだと思います。でも、自然相手の農作業はす

することが多いです。有機栽培は雑草との戦いです。

12時からランチ、13時からまた草刈りや草取り、落ち葉拾いなどだいたい18時ころまで。

繁忙期以外の忙しくない時期には、父と母と私はあえて別の畑で作業をしています。少し離れて自分のペースで仕事をすることで、お互いに気を遣わずに無理せず作業ができます。信頼関係があるからこそこのやり方ができていると思っています。

収穫は年4回です。春の新茶と、夏に2回、秋に1回です。紅茶は、ファーストフラッシュ、セカンドフラッシュ、オクタムナルがありますが同じような流れです。

秋の収穫期が終わったら、イベントへの出店や販促活動をし

ます。イベントでは直接消費者の方々と話すことで、PRや売り込み、貴重な意見をもらうことが出来ます。

もちろん、冬のあいだも茶園管理をしています。ヨーロッパやア

ごく大変です。特に経営主として事業を始めることは、経営管理や農業の知識・技術習得が必要で、消費者に信頼される生産者であるために日々努力しています。甘く見えてはいけません。

あと、農作業によつては、我が家みたいに二人での作業も多いので、寂しがり屋さんには向いていないかもしれません。

自分の育てた作物や作ったものを自分で売る農業は、納得のいく取引ができた時に達成感があります。これは農業を含むものづくりの良いところだと思います。

●その他、農業や

地域(鹿児島)の魅力など

鹿児島は農業県なので、つながりや知り合いは農業を通じて増えていきます。農作業で困ったことがあれば、地元農家のおじさんやおばあさんが教えてくれますし、農業をするにはとても良い環境です。さつま町は人口が少ないですが、人が温かくて優しく歓迎してくれます。自然いっぱいのとても良いところです。



むらした ありさ 村下 亜梨沙さん

農業をやってみて、
楽しかったです。



農業は思った通り楽しくて、今でもそう思っています。一生懸命やると達成感がありますよね。

経営 data

PROFILE

曾於市出身。両親は非農家。高校卒業後に鹿児島市内の会社勤務(バスガイド)を経て、結婚・出産を機にUターン。4児(長女16歳・次女14歳・長男12歳・三女8歳)の母。

事業概要

夫の両親の農業を継承して8年目。白菜20ha、キャベツ5ha、スイカ4ha、甘薯12ha、水稲1ha。従業員2名、外国人技能実習生7名。

目指す農業のかたち

みんなが楽しく働けるチームワークを大切にしています。農業は天候に左右され、大変な事も多いのですが、消費者の方に喜んでもらえる、より品質の高い野菜づくりを追求しながら収益を上げて、働くみんなにも還元していきたいです。また、農地を活かすことが大切なことだと思っています。

●就農のきっかけ

私は、鹿児島市でバスガイドをしていましたが、結婚・出産を機に夫の実家に就農しました。夫とは、高校生からのつきあいです。夫は農業をしてい祖父の影響で農業の良さを知り、卒業時にはいずれは実家の農業を継ぐことを既に決めていました。

務っていました。が、子供の誕生をきっかけに、就農と子育てのため、夫婦で帰郷しました。

●就農してみても感じたこと、苦勞したこと、「農業をやった良かった」と思った瞬間

やってみて楽しかったです。私が子育てしている間、夫は一生懸命働いて農業を覚えしました。その頃は社員1名と家族労働だったので大変だったと思います。夫はというと、忙ししているのにもかかわらず楽しそう。私も早く畑で一緒に働きたいという思いが強くなり、子供を保育園に預けて畑に出ました。思った通り楽しくて、今でもそうです。だからしたら時間が過ぎるだけですが、一生懸命働く、自分が全力で取組んでいることが実感できて、達成感がありますよね。

夫の両親も優しく、和気あいあいとしています。一緒に頑張る、お互いのそんな姿を見ながら労(ねぎら)いあって、毎日話し合っのが楽しいです。

●目標としていること

夫婦で継承して8年ですが野菜のつくり方もたいぶわかってきました。周年栽培なので、作業計画が大事です。夫と毎日仕事の反省をし、お互いに意見を出して消費者に喜ばれる野菜作りを目標としています。

規模的には、現状が維持できれば良いのかなと思っていますが、うちの畑も作って欲しい」と声をかけてもらって、面積も少しずつ増えています。

今は、従業員が2名、外国人の技能実習生が7名いますが、任せてもらった農地を大切に使い、収益を上げ、みんながんばってくれているので、働くみんなが、前向きに仕事ができる、働きたい環境づくりをしていきたいと思っています。

息子が継承してくれればうれしいので、「継いでみたい」と思わせる姿を見せたいですね。



●就農を考えている女性へのメッセージ
「是非やってみてください！」
と言いたいです。仕事は大変ですが達成感がありますよ。
農業は毎日の積み重ねですが、「自分はすごい頑張った！」と毎日褒めてあげることができ、素敵な職業です。
仲間もたくさんいます。私は今、「Soo woman Farmers」という農業女子の会で活動しています。農業や子育てなど日々の悩みなどを語り合ったり、ワークショップを

したりと、元気をもらえて農業へのモチベーションアップにもつながる大切な場です。
●その他、農業や地域（鹿児島県）の魅力など
周りはほとんどが農家で、困ったときに助けてくれます。代々の繋がりと助けあい、地域の結束性（力）ですね。良いサイクルであり仲間です。食生活は豊かです。今（取材時11月）は白菜の季節なので、子供達と毎日鍋料理を楽しんでいます。曾孫は素敵なお子さんです。

●日のタイムスケジュール
5時前に起きて、7時30分にご（倉庫・集荷場）に集合、7時50分からミーティングします。1日の流れを共有して「つぎの仕事はなんだろう」と迷わないようにしています。
8時から12時まで仕事して、それから休憩し、1時にまた仕事再開です。繁忙期は残業する時もありますが、5時までに終わるよう心がけています。
そのあとは子供の塾の送り迎えと夕食の準備をして…。農作業で疲れているので11時までには寝ていますね。
1年の流れは、4月からスイカの梱付が始まり6月後半からお盆過ぎまで収穫。白菜は9月ごろから植え付けて、収穫は10月後半から3月前半まで。水稲や甘藷は春から秋、キャベツは4月から6月に収穫します。
お休みは、基本的には1週間に1回ですが、天気予報や作物の状況を見て調整します。大好きな温泉に行き、疲労回復とモ

